

I Saw All Spain(その3)!! スペインと融合文化

(流通とSC・私の視点(897)より続く)

文明西進論という考え方があります。近代文明はルネッサンスの中心であるイタリアから始まり、スペイン、ポルトガル、オランダ、イギリス、アメリカ、アジア(日本、中国、インドあるいはロシア?)と、文明は西へ西へ進むという説です(過去においては、文明の中心は800年単位で東洋と西洋へと相互移動しています)。スペイン、ポルトガル、オランダ、イギリス、アメリカは世界の覇権国家(政治的、経済的、軍事的、文化的な中心となった国)になりました。

スペインは16世紀後半、「太陽の沈まぬ国」と呼ばれた帝国として、大航海時代にその名を馳せました。スペインの位置するイベリア半島は、その昔はローマ帝国の一部であり、その後、西ゴート王国が興り、711年以降は北アフリカから侵攻したウマイヤ朝のイスラム勢力によって支配されました。しかし、718年に西ゴート族でキリスト教徒のペラヨがアストゥリア王国を建国し、ペラヨはイスラム勢力に対してレコンキスタ、すなわち異教徒に奪われた国土を取り戻そうとするキリスト教徒の国土回復運動を始めました。幾度にもわたる戦いを続けた結果、アストゥリア王国は領土を拡大させレオン王国へ発展、そのレオン王国はやがてカスティリヤ王国、ナバラ王国、アラゴン王国として分割したものの、1479年にアラゴン王国のフェルナンド王子とカスティリヤ王国のイザベル女王が結婚し、両国を統一し、これがスペインの誕生になったというわけです(1492年スペイン帝国が成立)。16世紀に入ると、スペインのイザベル女王の子で第2王女のファナは、神聖ローマ帝国皇帝でハプスブルク家のマクシミリアン1世の子と結婚し、このことでファナの長男はカルロス1世となり、スペインとハプスブルク家の領土を1516年に全て継承することになりました。

ハプスブルク家の領土は、オーストリア、ネーデルランド、ナポリ、シチリア、サルディニアで、これにスペインの海外の植民地を加えた全てが、カルロス1世のものとなりました。スペイン帝国は、その後フェリペ2世の時代に最盛期を迎えますが、1588年には無敵艦隊と各国に恐れられた海軍がイギリスに打ち破られ、これを契機として次第に衰退の一途をたどります。1700年にスペインのハプスブルク家が断絶し、ブルボン家(フランス)の領地となりました。

このように、スペインが覇権国家になった要因の一つには「融合文化」の存在があります。

私がコンサルタント業でよく使用する言葉に「融合」があり、「融合とは、難局を突破しなければ成らない時に、異なる性格の概念を有機的に結合し、全く新たなビジネスモデルを創出すること」です(六車流：流通理論)。

まさに、スペインが覇権国家になることができた基軸に「融合文化」という概念があります。上記のスペインの歴史から見て、次の2つの融合文化があります。

第1の融合文化「異教徒との融合文化」

スペインの歴史は、キリスト教とイスラム教の宗教対宗教の戦いでもありました。ローマ帝国の植民地であった時は、キリスト教、その後のウマイヤ朝のイスラム教、さらにキリスト教国家の再構築(レコンキスタ=国土回復運動)により、異教徒との融合は新たな文化を創造します。スペイン人の異教徒との戦いのエネルギー及び、イスラム教とキリスト教の文化の新たな文化の創造は、国の潜在力を高めます。この新たな潜在力が、統一国家を確立し開花したのが、覇権国家「スペイン」です。

第2の融合文化「植民地との融合文化」

スペインはポルトガルと並んで大航海時代に活躍した国です。コロンブスによるアメリカ大陸の発見(1492年)、ヴァスコ・ダ・ガマは喜望峯経由のインド航路の発見(1489年)、そしてマゼランの世界一周航海(1522年)などで南北アメリカ及びアジアに進出し、特に南北アメリカを中心に植民地を拡大し、植民地からの富や異文化、特産物を獲得し、「融合文化」を確立し、独立後のスペイン王国を世界の覇権国家へと導き、太陽の沈まぬ国と呼ばれた帝国に発展したのです。

このように、異なる文化あるいは異なる産物の導入と融合は、互いに異質性が相乗効果を発揮して、新しい概念を創出します。

日本でも「中国と日本の文化の融合した飛鳥文化」、「スペイン・ポルトガルと日本の文化の融合した戦国文化」、「欧米文化と日本が融合した明治文化」、「アメリカ文化と日本文化が融合した戦後文化」、どれも良い悪いに関わらず融合文化によって国力が大発展しました。

(流通とSC・私の視点(899)へ続く)

(株)ダイナミックマーケティング社³
代表 六車秀之